

# 創造

千葉県立成田国際高等学校

第2学年 進路だより

2020年5月20日 第2号

## 自己の進路を見据え、3学年での 科目選択について考えよう！

本当に長引いてしまった自宅学習期間ですが、先が見えなかった1ヶ月前と比べて、明らかに状況は変わりました。千葉県でも緊急事態宣言解除は目前となり、暗闇でしかなかったトンネルの先によりやく学校生活再開の光明が見えてきました。あともう少しの辛抱と頑張りをお願いします。

15日発送の文書で、「次年度の科目選択について」というプリントが送られたことと思います。登校もさせぬまま、次年度での「科目選択」の指示を皆さんに伝えることとなり、とても心苦しい思いがしますが、この活動は、皆さんの今後の進路選択にとって重要なものです。1学年の時に取り組んだ選択で、既にある程度の方向性は決定済みとは思いますが、「教育課程表」や「学習内容」をよく読み込み、また自己の今後の進路希望を見据え、必要な科目を考えながら、3年生での選択科目の決定に着手して下さい。

進路指導部からは、発送文書の中に、「志望学部学科決定」(株式会社「フォームページ」の「テレメール進学カタログ」)を同封しました。この資料は、学びたいと思っている学問分野に応じて大学を選んだり、更に学部・学科を探したり、あるいは自分の興味のある学部を基に学問分野を探したりできることを目的としたものです。(注 前回の「夢ナビライブ」のお知らせに対し「大学案内パンフ請求リスト」にチェックを入れて返送くれた生徒には、いずれその大学のパンフレットが送られていくはずですが、同じ大学について「志望学部学科決定」の中の「資料請求葉書」を送ると重複になるので、この葉書を送る必要はありません。) 最終的に学部学科まで含んでいくつかの大学が見つければ、更に関心のある大学のHPなどを調べて、受験科目を絞り込むことができます。この一連の活動を積極的に行うことにより、今回の科目選択につなげていってください。

学年主任の一言(5月)  
誰かに言われたから、与えられたからではなく、自分の意志で、目標・目的を明確にして、最大限の準備をすること。

前回予告した「夢ナビライブ 講義動画サービス」は、志望している学問分野に応じて、実際の大学の講義を検索できる無料動画サービスです。視聴ができれば皆さんの科目選択にも大いに参考となる学習活動となるはずですが、学年で視聴サービスを受けるに当たっては、まず2学年の生徒全体から「資料請求申込書」を返送してもらう必要があります。まだ「茶封筒」で成国への返送を終えていない生徒は、是非ご協力をお願いします。(視聴開始は早ければ6月1日頃を目指しています。)

大学の入試制度や受験方法については「息吹」4号・5号を熟読してください。現在の3年生が受験する今年度入試から「センター入試」は「大学入学共通テスト」へと変更されます。「AO入試」は「総合型選抜」へ、「推薦入試」は「学校推薦型選抜」へ、「一般入試」は「一般選抜」へと名称が改まります。「共通テスト」については英語をはじめとする内容の変更、「総合型」・「学校推薦型」については従来のもの比べて内容と実施時期の変更があることが既に周知されています。

## 学びの鉄則は「学問」への興味を早期から狭めないこと。

たまたま現代文の教材に、「文系と理系の壁はあるか」という題名の評論がありました。この文章から『「文系であるか理系であるかという理由』で自らに制約を設けてしまうと、自己の視野を狭めてしまうことになる。』という主張を受け取れました。2年生である皆さんには、学問の本質から言えば、「学問の幅を狭めず、広い知識を身につけた人格こそが高い視野と豊かな見識を獲得することができる」ことを、受験の鉄則を前提に言えば、「科目の数を絞り込まず、多くの科目を準備して受験に備えた方が有利である」ことを、それぞれ切に訴えたいと思います。3学年への科目選択とは別問題として捉え、「受験科目の数を早く絞って効率よく学ぼう。」という姿勢ではなく、「広く様々な学問分野を学んでいこう。」という意識で2年生の学習をスタートして欲しいと願っています。

## 学校教育がオンラインにより大きく変わる時代・・・ ・・・成国では「強い」出会いを探し求めて下さい！

いよいよスタディサプリが導入され、オンラインで学習ができる環境が整いつつあります。この学習手段を大いに活用し、自己の創意工夫で学習時間を補いつつ、「学びの習慣」を堅持して欲しいものです。一方で成国での学校生活も再開します。学校は本質的に人と人が直接言葉を伝え合い、お互いを高め合う場です。卒業生の多くが、先生方と強いつながりを持ち、友人と切磋琢磨し、刺激を得て、夢を形ある確かなものとし、堂々と進路希望を実現していきました。また、その生徒達自身も、単に受け身で何かを与えてもらおうという姿勢に甘んじることなく、若さ溢れる野心や意欲と、真正面から学習に立ち向かい、粘り強くそれをやり抜いていく活力を持っていました。

とかく「出会いを大切に」と言いますが、「強い」出会いがあつてこそ、若者は大きく成長します。加えて自身の中に「変わりたい」という向上心があつてこそ、それは可能になるのではないのでしょうか。「出会い」は人に対してだけではなく、書物や学問に対してのものかもしれません。皆さんは、最初の一年で、先生方や友達との間で、あるいは一冊の本を通じて、「強い」出会いを経験しましたか？ 6月以降、成国での生活でそれがあつた時、大きく飛躍できるチャンスが皆さんに訪れるはず。またその前提となる、一人一人が秘めている希望・主体性・創造力は常に失わないでください。

学年の先生方も、皆さんとの再会を希求してきました。2年生すべての飛躍を期待しています。

### 『レ・ミゼラブル』

(ヴィクトル・ユゴー・井上究一朗訳)

「忘れてはなりませんぞ、決して忘れてはなりませんぞ、この銀から入るお金は、あなたが正直な人間になるために使うと私に約束した、ということ。」

貧しさと飢えのために一切れのパンを盗み、徒刑場に送られたジャン・ヴァルジャンは、脱獄を重ねたあげく、一九年の刑期の果てによく釈放されます。囚人であったことを恐るか、誰一人として彼に食事や宿を提供する者はいません。ただ一人、慈悲深いミリエル司教(カトリックの高位の聖職者)だけがジャンを受け容れ、温かい食べ物とベッドを彼に与えます。ところがその老司教の厚情と信頼を裏切り、ジャンは夜中のうちに銀の食器を盗み出して逃走します。憲兵につかまり、再び司教の館に引き立てられ、いわゆる「面通し」を受けるジャン・ヴァルジャン。しかしミリエル司教の言葉は意外なものでした。「食器は盗まれたものではなく、自分が『与えた』ものなのです」司教は憲兵にそう告げて、ジャンをかばうのです。

このことを契機に、それまでは「生き抜くためには悪をも為す」存在だったジャンの精神は大きく変わり始めます。この経験が終生に渡り彼の支えとなり、道標となるのです。ミリエル司教はジャン・ヴァルジャンを「赦し」によって教導し、彼を善なる存在へと変えるのです。